

## 第6学年社会科学学習指導案

日時 平成 年 月 日第5校時  
場所 6年生教室  
指導者

### 1 単元名 天皇中心の国づくり

### 2 指導について

#### (1) 単元について

本単元「天皇中心の国づくり」は、学習指導要領の以下の内容を受けて構成されたものである。

#### 第6学年の目標

(1) 我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。

イ 大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子、貴族の生活について調べ、天皇を中心とした政治が確立されたことや日本風の文化が起こったことがわかる。

この内容は、聖徳太子が政治を行ったところから京都に都が置かれたところまでの時期のうち、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の三つの歴史的な事象を取り上げ、これらを具体的に調べることを通して天皇を中心とした政治が確立されたことが、また、貴族の生活を具体的に調べることを通して、日本風の文化が起こったことが、それぞれわかるようにすることをねらいとしている。

「天皇を中心とした政治が確立されたことがわかる」とは、聖徳太子の政治や大化の改新によって政治の仕組みが整えられたことや、大仏が造営されたところに天皇を中心とした政治が確立されたことがわかるようにすることである。

単元の始めは、聖徳太子が建てたとされる世界最古の木造建築物であり世界文化遺産である法隆寺がどのような建物かを調べる。その優れた技術と1300年も昔の建築物が大切に受け継がれてきた事実から、聖徳太子がどのような考えから法隆寺を建てたのか、また、太子はそのほかにどのようなことを行ったかに関心をもたせ、一つ一つの業績とその思いを考えながら資料を読み取っていく。そして聖徳太子の目指した新しい国づくりは太子の死後、どうなったかを予想して、単元を貫く課題「聖徳太子の新しい国づくりは、だれが、どのように受けついでいったのか。」を設定する。

聖徳太子の目指した、天皇を中心とした争いのない国づくりは、大化の改新によって政治の仕組みが整えられたことで進められていく。「都へ運ばれてきた各地の主な産物」などの絵資料で事実を見つけ、それが天皇の力と結びついていくことを捉えさせていく。

本時は、聖徳太子から中大兄皇子や中臣鎌足へと受け継がれて確立した天皇中心の国において、聖武天皇が国を治めるためにどのような願いをもち、どのような政治を行ったかを考え話し合う。

奈良の大仏の大きさや国分寺の数やその広がり、聖武天皇の詔の資料から、そのような大事業を命じた聖武天皇の力の大きさを捉えさせる。さらに、仏教を信じて広めようとする聖武天皇の思いは、「たびたび移された都」「聖武天皇の年表」にある当時の社会の様子と関連させて、天皇の苦悩と切実なる願いとして捉えることができるようにする。

この単元は、修学旅行の見学先について調べる総合的な学習の時間と関連して扱う。単元の学習後には、聖徳太子が仏教の教えを広めようとして建立した法隆寺、聖武天皇の願いが込められた東大寺の大仏などを、学習したことを想起しながら見学することによって、昔の人々の思い、よりよい世の中をつくりたいという願いを実感として感じとらせたい。また、今ある生活が先人たちの営みとつながり、成り立っていることを理解することで、先人への感謝の念や歴史を大切にしていこうとする心情を育てていきたい。

## (2) 児童の実態

6年生は、男子 名、女子 名の 名の学級である。明るく活発であり、興味・関心をもったことに進んで取り組もうとする児童が多い。また最高学年として、これまでの6年生の活動を受け継いでいこうとする意欲をもっている。しかし学習態度に目を向けると、自分の考えをもつことができなかつたり、友達の考えを自分の考えと比べながらじっくり聞き、話し合うことによって考えを深めることができなかつたりする姿がある。国語の読み取りでは、全体的なイメージとしては人物の気持ちを掴んでいるものの、文や言葉の裏にある意味、人物の思いを状況や自分の生活経験と関連させながら捉えようとすることができない弱さが浮かび上がってきた。

そこで、歴史学習のスタートの単元では、絵資料の細かいところまで見ることで、何をしているか(事実)どんな気持ちか、どうして行っているか(意味)について、一人一人が自分なりの考えをもつことができるように学習を進めてきた。文章資料については、その内容から人物の思いや願いを探るのは、本単元の「聖武天皇の詔」が初めてである。その一つ一つの言葉から、天皇の強い思いを捉えることが大切であることに気づかせていきたい。

その時代を生きた人々の様子を知り、その思いを様々な面から考えることを通して、歴史を学ぶことの楽しさを味わい、いにしえから現代に至るまで、人々が自分たちの生活をよりよくしたいという思いや願いをもって工夫し、努力してきたことに気づかせていきたい。

## 3 研究主題にかかわって

### <研究主題>

社会事象に進んでかかわり、よりよい生き方を身につけていく子どもの育成

研究内容① 子どもが明確な課題意識をもち、自らかかわりを求めて追究しようとする教材の開発

#### (ア) 生活経験や学習経験による子どもの関心・意欲・知識の把握

- ・ 自主学习によるノートの量や内容から関心度を把握する。
- ・ 授業中の挙手、発言回数とその内容から意欲度を把握する。
- ・ 毎時間行う学習課題に対するまとめを参考に、理解度を把握する。

#### (イ) 追究意欲を促す教材の開発とその提示方法

##### 【単元のねらいに迫る教材の提示方法】

- ① 東大寺の大仏の大きさを実感させる。数字だけでなく、大仏の「お身ぬぐい」の写真からその大きさを想像させ、実物大の大仏の手に乗ってみることを通して、実感を伴った感想や疑問が生み出すようにする。
  - ② 国分寺の数を数えさせることで、その数の多さと広がりにつかせるようにする。
- 以上2点をまとめて本時の課題化をする。

#### (ウ) 学習課題を明確にして、見通しをもって追究し、確かな学力をつけることができる単元構想

##### 【単元を貫く課題をつくり、毎時間の学習のまとめで確認をする】

聖徳太子が「天皇中心の国、争いのない国」を目指して行ったことが、中大兄皇子や中臣鎌足が進めた国づくり、聖武天皇が行った国づくりへと引き継がれていったことを、毎時間のまとめで確認する。

【単元を貫く課題について追究の見通しをもつために学習計画表をつくる】

学習計画表は、毎時間の自己評価カードとして活用する。

【課題に対する予想を立て、個人調べをする時間を確保する】

単元を貫く課題について、自分なりの予想を立てて調べる時間を確保することにより、追究の見通しをもち、基礎的な力（難解な語句を調べること、時代の流れを確認すること、文化遺産や人物の人となり、その偉業を知ること等）をつけることができると考える。

研究内容② 子どもが主体的な学習を進めていくための学習活動の工夫

(ア) 課題追究に必要な調査方法（聞き取り、資料収集、実験・観察、体験、制作等）の支援

- ・資料を読み取るための方法を示し、指導する。（事実見つけ、意味みつけ）
- ・部分読みのヒントとして、注目させたい部分を「→」や「アンダーライン」で示す。
- ・「たびたび移された都」と「聖武天皇の年表」をつないで読み取るようにする。

(イ) 調べたことから自分なりの考えをもつためのノートや表現活動の指導の在り方

- ・事実からわかること、自分の考えとを矢印でつないで書く。
- ・人物の思いをふきだしに書く。

(ウ) 社会的なものの見方や考え方、よりよい生き方を深め合う話し合い活動の在り方

- ・中小「話し方の山」「聞き方の山」を意識して話す。

研究内容③ 学習のねらいを明確にした評価と支援の工夫

(ア) 一人一人の学習状況に応じた評価と支援

- ・児童がノートに添付して書き込むことができるように、本時の学習で読み取る資料を準備する。
- ・毎時間のまとめについて、その子なりのよさを見つけて励ます。また、社会的なものの見方・考え方を掴んでまとめている児童のノートを認めて全体に広める。

(イ) 自分の学習を振り返り、見通しをもって追究するための自己評価

- ・課題確認の後に、授業最後の自己評価の観点を伝える。
- ・自己評価カードを作り、毎時間、授業の終わりに評価する。
- ・本時の課題にそった観点1つを評価する。
- ・評価項目について
  - ①関心・意欲・態度 ⇒事実や疑問を進んで見つけることができたか。 見つける
  - ②観察・資料活用の技能⇒「資料の読み取り方」を意識し、課題に沿って読み取ることができたか。 読み取る
  - ③思考・判断・表現 ⇒読み取ったことを基に人物の思いや願いを考え、なりきって表わせたか。 考え、表わす
  - ④知識・理解 ⇒わかったことを、キーワードを使ってまとめることができたか。 まとめる

## 8 単元構造図

### 単元のねらい

(関心・意欲・態度)	大陸文化の摂取, 大化の改新, 大仏造営の様子, 貴族の生活とそれらにかかわる人物の働きや代表的な文化遺産に関心を持ち, 進んで調べようとしている。
(思考・判断・表現)	大陸文化の摂取, 大化の改新, 大仏造営の様子, 貴族の生活とそれらにかかわる人物の働きや代表的な文化遺産について, 学習問題や予想, 学習計画を考え予想するとともに, 天皇中心の政治が確立されたことや日本風の文化が起こったこと, これらにかかわる人物の働きや代表的な文化遺産の意味について思考・判断したことを, 言語などで適切に表現している。
(観察・資料活用の技能)	大陸文化の摂取, 大化の改新, 大仏造営の様子, 貴族の生活とそれらにかかわる人物の働きや代表的な文化遺産について, 文化財, 地図や年表その他の資料を活用して必要な情報を集めて読み取り, 白地図や年表, 作品などにまとめている。
(知識・理解)	聖徳太子や中大兄皇子, 中臣鎌足, 聖武天皇らの働きによって天皇中心の政治が確立されたことや, 藤原道長ら貴族が栄えたころに日本風の文化がおこったことがわかっている。

